長浦小学校学校だより

笑顔で“できる”

自ら学ぶ子

令和7年2月14日 第14号
長浦小学校 校長 丸山朋子

「立春」そして、寒波…。

暦の上で春を迎えるや、「最強・最長の寒波」が到来した日本列島。あの夏の厳暑を思い起こすと、気温の変化は40度に迫ります。

2月を「きさらぎ」とも言います。まだまだ寒さ厳しく、更に衣を重ねて着る「衣更着（きさらぎ）」というのが由来にあるようですが、この頃の寒さを思うと、納得できる名付けです。

重ね着・厚着の日々はしばらく続きそうです。体調を崩している子どもたち、ご家庭、地域の皆様もいらっしゃいます。

皆様どうぞご自愛ください。

3学期は、新年度のゼロ学期

1月27日、各学年の代表児童が集まり「代表委員会」が行われ、「6年生を送る会」について話し合いました。初めて参加した2年生も、先輩たちに混じって積極的に発言しました。

また、2月5日には、「令和7年度新入学児童入学説明会」を実施しました。説明会の間、入学予定の子どもたち9名は、5年生と一緒に活動しました。5年生は、この日のために計画、準備をしてくれており、当日は、相手の様子に合わせて、優しくかかわる姿が随所に見られました。現6年生の跡を引き継ぎ、4月から長浦小の新しいリーダーとなる子どもたち。成長著しい14名です。

「卒業」と「入学」・・・。来たるべき春に向かって、一人一人が力を蓄え、あと一歩、あと一歩の成長を続けます。

「自ら学ぶ子」

2月1日、学校の松の木が伐採されました。残された4つの切り株に刻まれた年輪が、歴史を伝えます。

松の木と同じ年に、並んで建てられた大きな石碑は、この出来事にも動じることなくでんと立ち、存在感を強めています。運動場に向く石面には、「自ら学ぶ子」と、刻まれています。

2月の全校集会で、石碑に刻まれた「自ら学ぶ子」を話題に話をしました。

「どんなことを『自ら＝自分から』していますか？」子どもたちに問いました。「あいさつ」「そうじ」「〇〇に餌をやること」などの声が返ってきました。

「『自ら』何かをする、やってみる」姿は、主体性の表れです。「主体性」は、教育活動において、改めて大切にされていることです。

一方、自ら、何かをする人が、たくさん経験することがあります。それは「失敗」という経験です。

もちろん、本当の意味では「失敗」ではなく、何事かに挑戦する人が味わう「経験・学び」です。「失敗」を経験しないための方法は、「何もしないこと」とも言われますね。

学習の場で遊びの中で、子どもたちは、「うまくいかないこと」にも出会います。そんな時、手出し・口出しをせずに見守っていると、子どもはネガティブな感情を持ちながらも、言動や行動は最善を尽くそうとしはじめます。分別して行動しているのです。

「自ら学ぶ子」を育む大人。子どもたちに主体性を育むために、わたしたちのあり方も肝心です。

長浦みらいまちづくり協議会主催

長浦地区防災の集い

○ 日時：2月16日（日） 13時～16時
○ 場所：琴海文化センター

ご家族で、お隣さんと、自助・共助の地域づくりをみんなですすめましょう